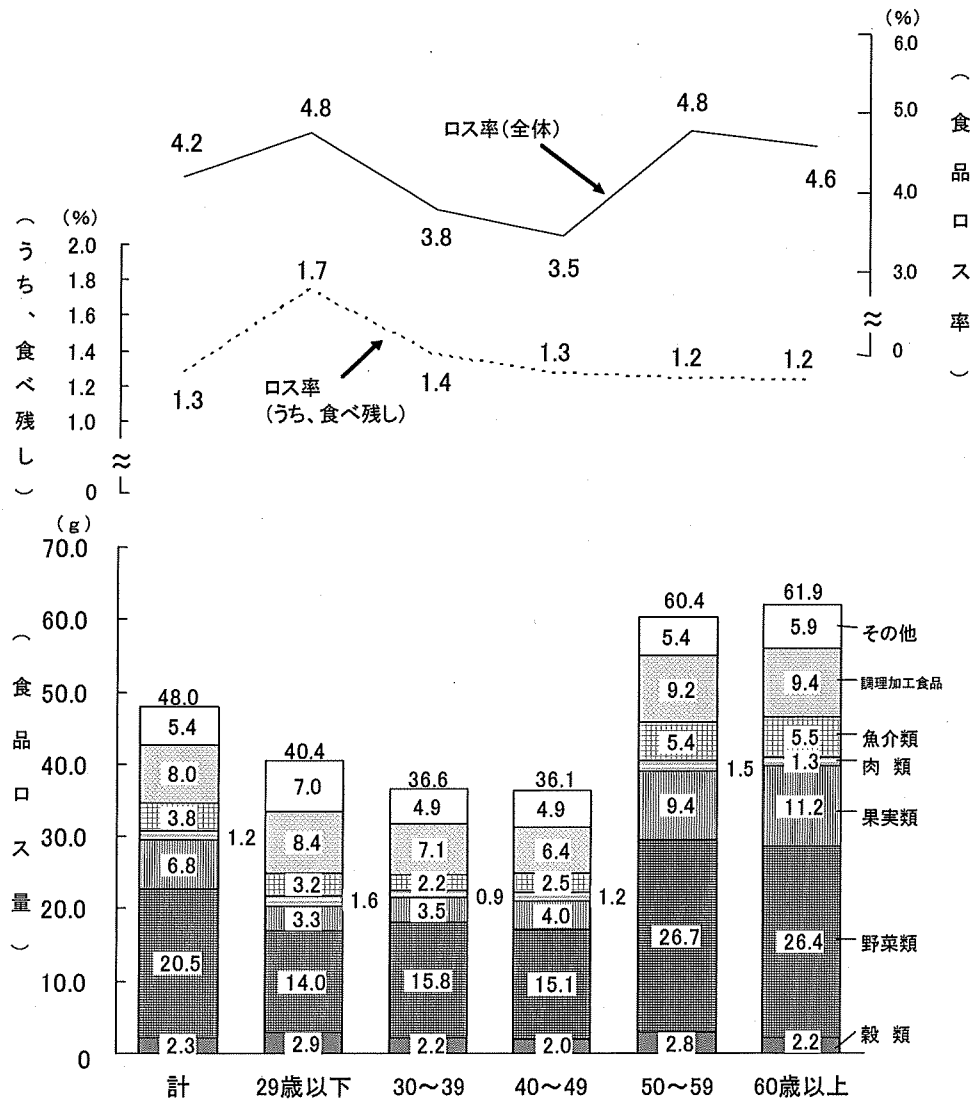


(3) 食事管理者の年齢別の食品ロス

食事管理者の年齢別に食品ロス量をみると、食品使用量が多く、また、一般的にロス率の高い野菜類や果実類、魚介類の使用が多い50歳以上の層で顕著に多くなっている。

また、食品ロス率は、50歳以上の層と食べ残しや直接廃棄の多い29歳以下の層で高くなっている。

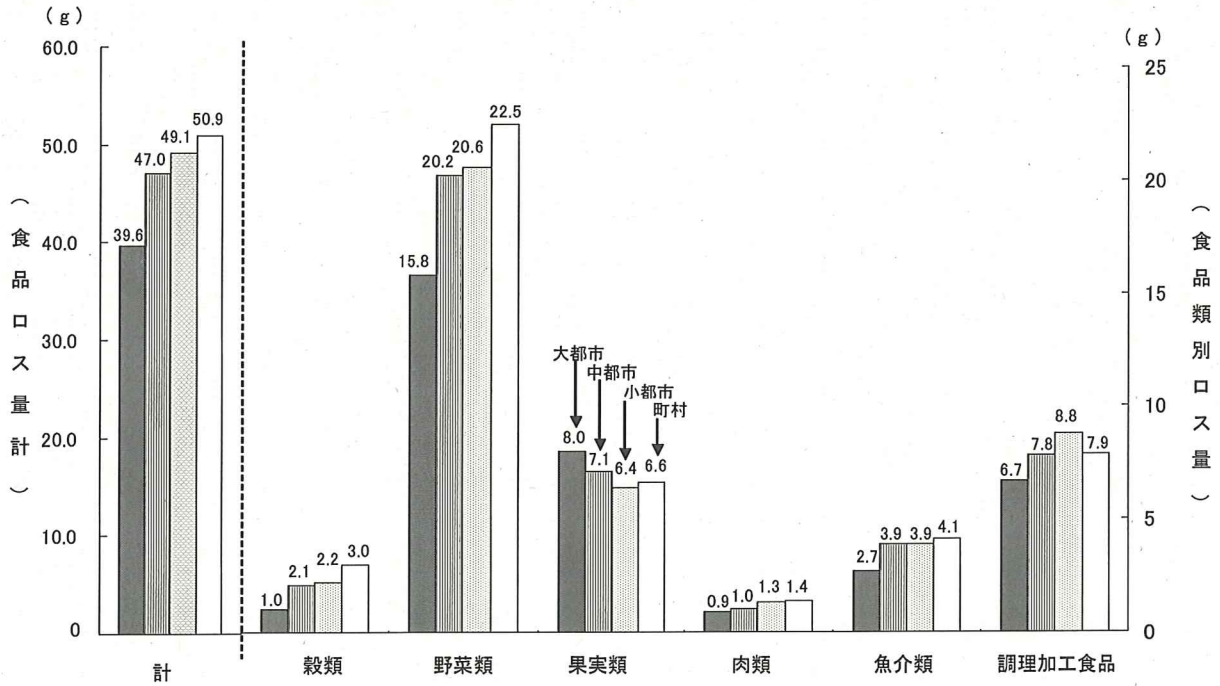
図6 食事管理者の年齢階層別の食品ロス量



(4) 都市階級別の食品ロス

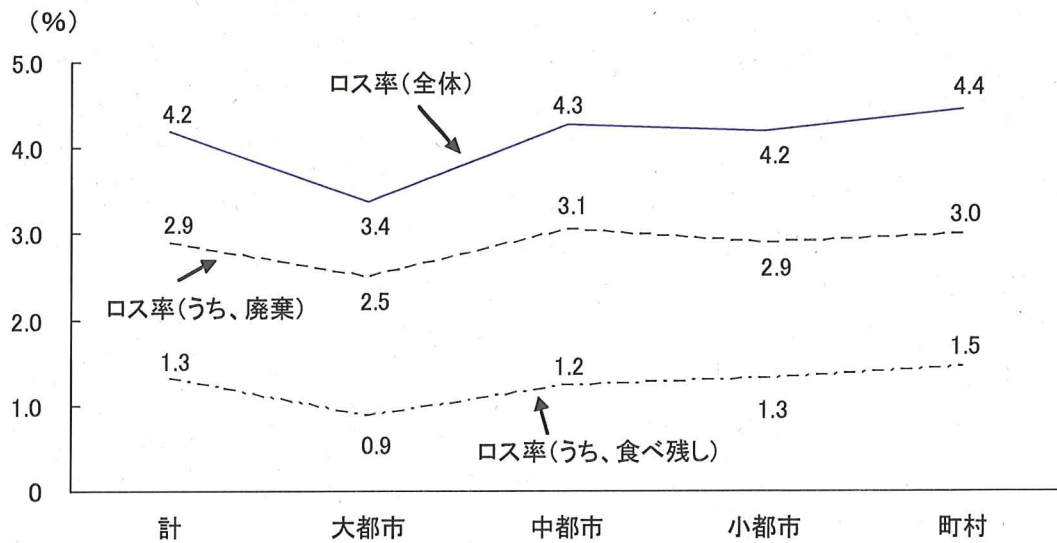
都市階級別に食品ロス量をみると、大都市が最も少なく、中都市、小都市、町村の順に多くなっており、これを食品類別にみると、果実類は大都市が最も多く、穀類、野菜類、肉類、魚介類は町村が最も多くなっている。

図7 都市階級別にみた食品ロス量(世帯食1人1日当たり)



また、食品ロス率についてみると、食品ロス率、廃棄率、食べ残し率ともに大都市が最も低くなっている。

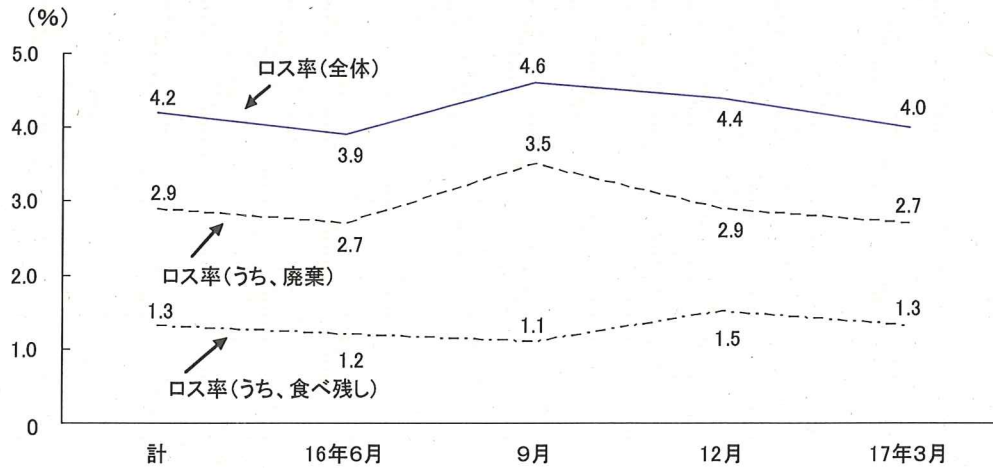
図8 都市階級別にみた食品ロス率



(5) 調査時期別の食品ロス

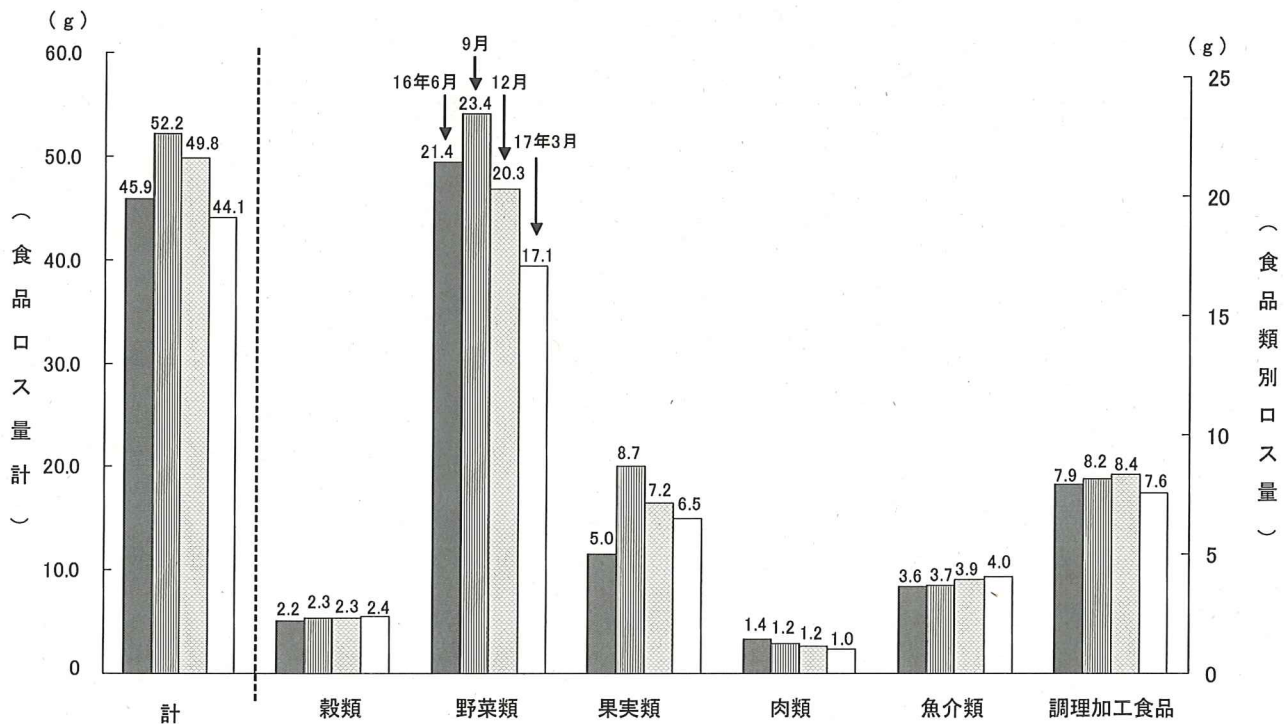
調査時期別に食品ロス率をみると、16年6月が3.9%、9月が4.6%、12月が4.4%、17年3月が4.0%となっている。また、うち食べ残し率については9月が1.1%と最も低く、12月が1.5%と最も高くなっている。

図9 調査時期別にみた食品ロス率



また食品類別の食品ロス量をみると、野菜と果実で9月が高くなっているものの、穀類、肉類、魚介類、調理加工食品では大きな差はみられない。

図10 調査時期別の食品ロス量（世帯食1人1日当たり）



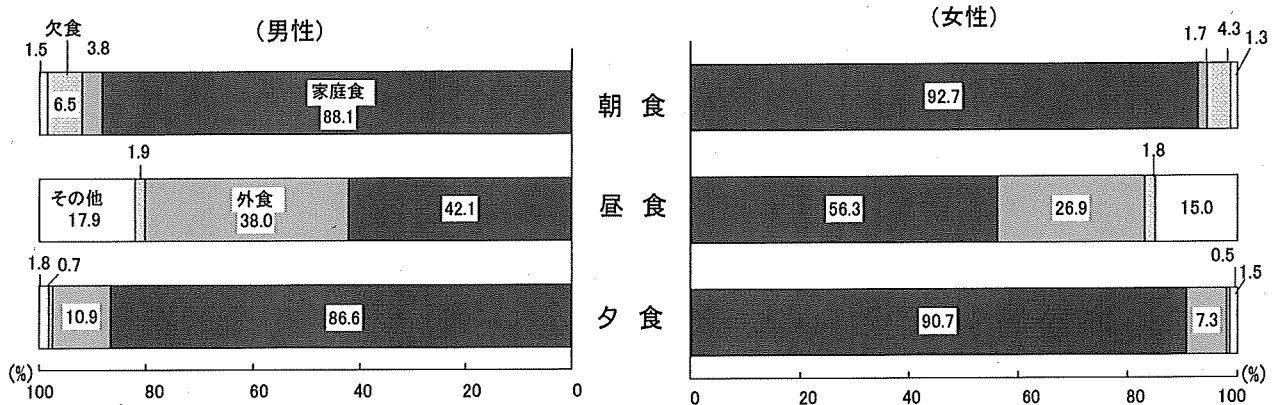
3 世帯における食事の状況

(1) 世帯員の食事状況

ア 調査期間1週間における世帯員の食事状況についてみると、朝食、夕食ともに家庭食（家庭で摂る食事）の割合は9割前後であった。

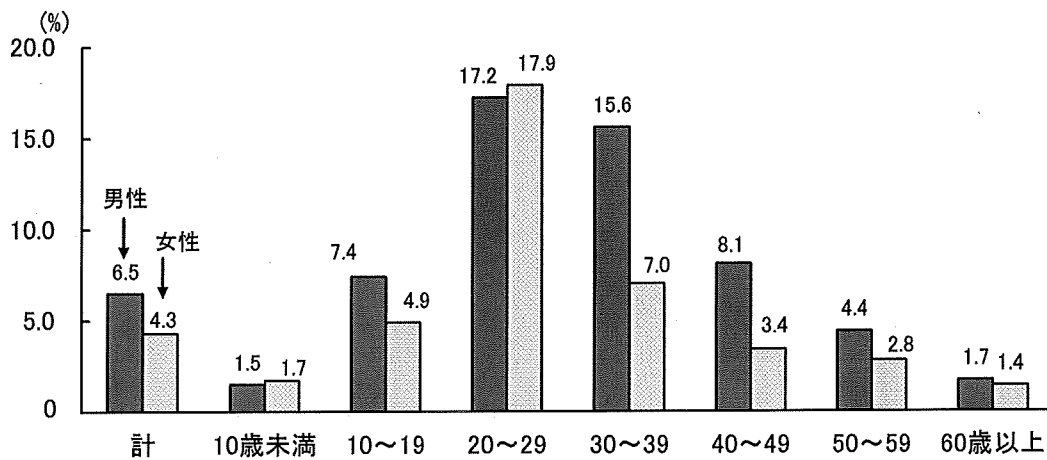
また、昼食では、家庭食は男性が42.1%、女性が56.3%であり、外食や給食などによるその他の食事が朝食、夕食に比べ多くなっている。

図11 世帯員の食事状況



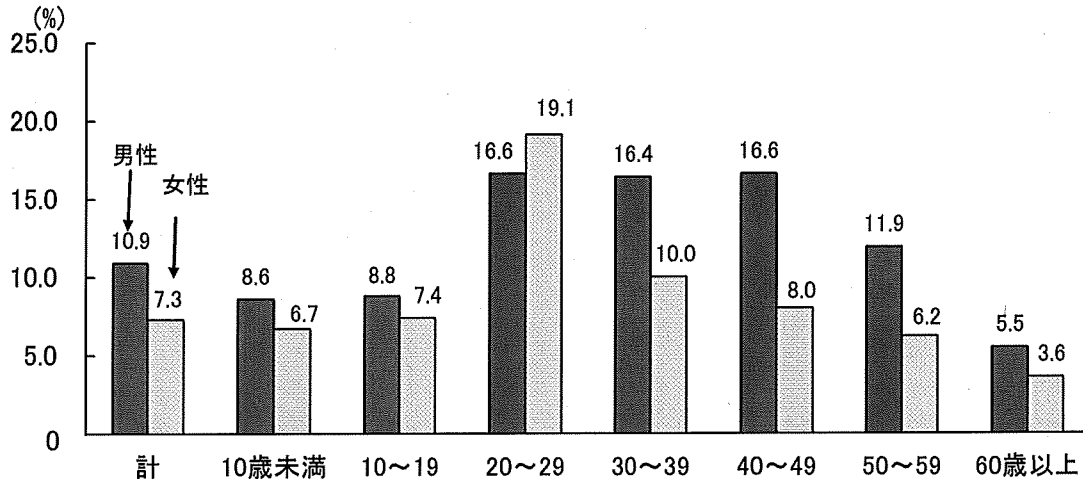
イ 調査期間1週間における世帯員の朝食の欠食割合をみると、男性が6.5%、女性が4.3%であった。これを年齢別にみると、男女ともに20~29歳で最も高かった。

図12 世帯員年齢別にみた朝食の欠食割合



ウ 調査期間1週間における世帯員の夕食の外出割合をみると、男性が10.9%、女性が7.3%であった。これを年齢別にみると、女性では20~29歳をピークにその年齢層以降減少しているが、男性においては20~29歳から40~49歳まで高い割合となっている。

図13 世帯員年齢別にみた夕食の外出割合



(2) 世帯での食事状況 (3人以上世帯)

ア 調査期間1週間の食事状況を3人以上世帯についてみると、自宅での食事を世帯員全員で一緒に摂る割合は、朝食では、週5回以上の世帯が52.9%で、一緒に食事を摂ることが全くない世帯は22.6%であった。

また、夕食では、週5回以上の世帯は47.3%で、一緒に食事を摂ることが全くない世帯は10.4%であった。

図14 世帯員全員が一緒に食事をした割合 (3人以上世帯)

